

| | | | | |
|---|-----------------|-------------|------|--------------|
| 科目名 Course Name | | 開講年次 | 開講学期 | 曜日・時限 |
| 日本文化と社会 Introducing Japanese Culture and Society | | 2年 | 前期 | 別途、時間割参照 |
| 単位数 | 授業の形態 | 授業の性格 | | 履修上の制限 |
| 2単位 | 講義 | 選択 () | | 留学生用科目 |
| 当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目 | | | | |
| なし | | | | |
| 同時に履修しておくことが望まれる科目 | | | | |
| なし | | | | |
| 担当者に関する情報 | | | | |
| 氏名 | 研究室の場所 | オフィスアワー | | 電話番号・メールアドレス |
| 松崎勇人 | 本館2階 | 講義のない時間や昼休み | | 授業中に指示します |
| 授業の概要 | | | | |
| 留学生の皆さんに、日本の文化と社会の特徴(他の国と比べて目立つ点)を紹介する。 | | | | |
| 授業の目標 | | | | |
| ①日本の歴史の流れを述べるができるようにする。 ②日本の社会について述べるができるようにする。 ③日本の文化について述べるができるようにする。 | | | | |
| 授業の方法 | | | | |
| 講義形式で行うと共に、あるテーマについてのディスカッションを行い、自ら考え説明できるようにする。 | | | | |
| 学習の成果(学習成果) | | | | |
| ①日本の社会になれることができる。 ②日本の美意識を感じるができる。 | | | | |
| 授業のスケジュールと内容 | | | | |
| 第1回目 | はじめに | | | |
| 第2回目 | 日本の歴史(古代) | | | |
| 第3回目 | 日本の歴史(中世から近世) | | | |
| 第4回目 | 日本の歴史(近代から現代) | | | |
| 第5回目 | 日本の社会(天皇) | | | |
| 第6回目 | 日本の社会(古事記と日本書紀) | | | |

| | |
|-------|-----------------|
| 第7回目 | 日本の社会（宗教） |
| 第8回目 | 日本の社会（協調性と道德教育） |
| 第9回目 | 日本の社会（日本国憲法と国会） |
| 第10回目 | 日本の文化（日本食） |
| 第11回目 | 日本の文化（能と歌舞伎） |
| 第12回目 | 日本の文化（茶道） |
| 第13回目 | 日本の文化（華道） |
| 第14回目 | 日本の文化（書道や武道） |
| 第15回目 | ディスカッションとまとめ |
| | |

成績評価の方法と基準

| 評価の領域 | 割合 | 評価の基準 |
|------------|-----|--|
| 授業参加態度 | 30% | 最高水準としては、講義者の話を集中して聞き、質問に的確に答えられること、与えられたテーマについて仲間の意見を聞き、自分の考えを述べられるなどである。 |
| レポート | | |
| 調査報告書 | | |
| 小テスト | | |
| 試験 | 70% | 到達目標に示した内容に関する基本的事項を述べられるかどうかをペーパーテストにより尋ねる。評価基準の詳細は講義中に説明する。 |
| 発表内容（態度含む） | | |
| その他 | | |

教科書と参考図書

高橋瞳著『日本入門』小学館。

履修上の留意点・ルール

極力休まないこと。ノートをとること。積極的に討論に参加すること。私語はしないこと。